

屋山太郎著「安倍晋三三興国論」海竜社 2015年12月29日刊を読む

下村文科相の交代を惜しむ ―日本人らしい日本人を生む教育改革―

1. 下村博文文科相が新国立競技場建設の白紙撤回をめぐる責任をとって辞任を申し出た。安倍首相は10月初めに行う内閣改造まで「辞表は受け取らない」と述べたと言う。結局、下村氏は内閣改造で閣外に去った。
2. 教育再生に果たした下村氏の功績は大きいだけに、残念でならない。安倍内閣の看板閣僚として氏は実に多くのことを成し遂げた。文科省として改革を進めると同時に、教育再生実行会議(座長・鎌田薫早稲田大学総長)の「提言」(第1次～第8次)は中教審で議論し、結論が出たものはほとんど実行していくというスタンスだった。
3. (1)いじめ防止対策推進法制定
(2)土曜授業の活性化
(3)教科書採択ルールの明確化
(4)教科書検定基準の見直し
(5)教育委員会制度改革
(6)道徳の教科化
(7)高校「近現代史」の新設・必修
(8)英語教育の強化
(9)大学ガバナンス改革
(10)高大接続改革
4. 思いつくまま、ざっと並べてもこれだけある(進行中も含む)。
5. とりわけ**教育委員会制度の改革**は、**教育基本法改正**に続く大改革となった。改革を終始リードしたのは下村氏である。

P.144～146

<コメント>

下村博文 文部科学大臣の日本の教育に果たした役割は極めて大きい。この点は屋山氏と全く同じ意見だ。これからの残れされた課題は、どうこの下村教育改革を深め実現するかだ。

―2016年2月14日(日) 林 明夫記―